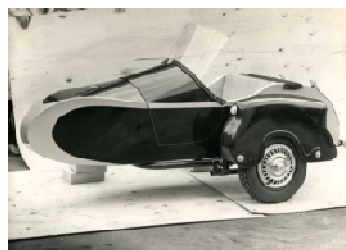
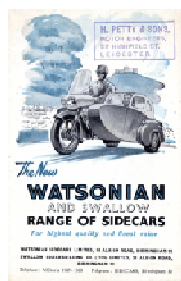
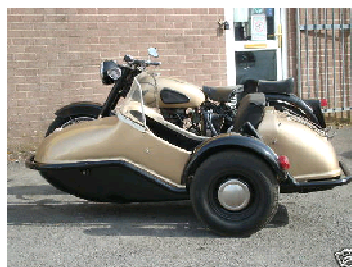
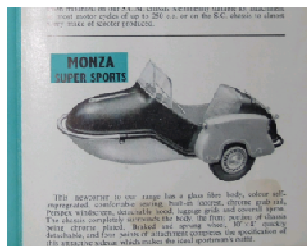


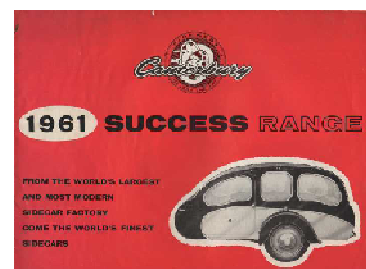
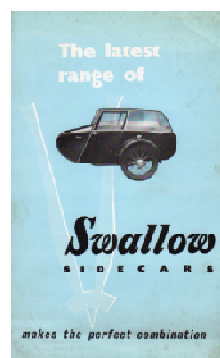
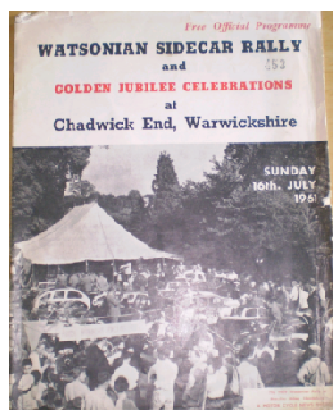
1961年 この年のカタログを見ると乗用14種、その中にスワローブランドが5種含まれている。シャシーは、2種となる。



現在のワトソニアンサイドカーのルーフフレームは、この年のモンツァによって生産が始まる。この当時モンツァは、スーパースポーツのサイドカーであった。



この年、ワトソニアンサイドカーは、創業50周年を迎える。この当時まで創業は、1911年と公表していたからである。その後1912年に訂正され現在に至っている。50周年の公式プログラムを見ると7月16日にワトソニアン ゴールデンジュビリーというイベント名で大々的に開催された。ワトソニアンブランドだけでなくバスマーサイドカー、ガラードサイドカー、ブラックネルサイドカー、スワローサイドカー、カンタベリーサイドカーも展示された。サイドカーショーが開催されホームメイドカップという手作りサイドカーのコンクールもあったようだ。コメディアンショーがあったり飲食店の出店があったりこの頃のサイドカーのマーケットの大きさが垣間見える。ただしこの頃をピークにフォード等の4輪車の台頭によりサイドカーの売上は、下降していく。サイドカーは、便利な交通手段としてでなくマニアの趣味的な乗り物に変わっていく。



1970年 アメリカやスカンジナビアへの輸出開始。1970年代になるとルーフフレームモデルは、増えモナコ（現行タイプ）やパルマが発表される。そして主力モデルGPスポーツが発売される。GEMライトウェイトサイドカーもこの時代発売された。

